

資料④

2021.10.21 版

マスコミ倫理懇談会全国協議会 関係各位

第64回全国大会（岡山市）の開催中止と講演・分科会の実施について

※10月21、22日に岡山市で予定していた全国大会は、新型コロナウイルスの感染状況などを踏まえ中止となりました。ただし、大会スケジュールのうち記念講演と、5つの分科会は下記のとおり順次オンラインで開催します。申し込み方法等は個別の開催案内をご参照ください。

大会テーマ：「コロナ禍のいま 伝えるべきこと 伝えていませんか」

<参加締め切り>

◎分科会1：「相次ぐ大型災害——災害報道、防災報道とは」

10月21日（木）午後1時、岡山プラザホテルからオンライン

◎記念講演：「コロナ禍でのマスコミ報道を診る」

10月22日（金）午後3時、日本新聞協会会議室からオンライン

片山善博氏（早稲田大学政治経済学術院教授、元鳥取県知事、元総務大臣）

◎分科会2：「新型コロナウイルスと広告コミュニケーション」

10月29日（金）午後1時、日本新聞協会会議室からオンライン

<今後の分科会>

◎分科会3：「メディア企業はネットをどう利用するのか」<10月28日締め切り>

11月5日（金）午後1～5時、日本記者クラブ記者会見室からオンライン

座長：講談社編集総務局法務部部长・秋元直樹／岡山放送報道技術局次長・岸 正明

①「言論機関の新たな『立法者』とどう向き合うか」慶応大学法務研究科教授 山本龍彦氏
利用規約の策定＝支配によってプラットフォーム企業は New Governors と呼ばれる。SNS、検索エンジンの機能や影響範囲の違いに応じた適切な対策（監視）が必要ではないか。

②「忘れられる権利とニュースの寿命」

朝日新聞東京本社編集局ゼネラルマネージャー補佐 西川圭介氏

Web上の記事はいつまでそのままの状態に残されるのか。アーカイブと「忘れられる権利」の関係を再考する。

③「なぜプラットフォームに自社サイトが埋没してしまうのか」

小学館ポスト・セブン局プロデューサー 鶴田祐一氏

④「フェイクニュースの生成・拡散に加担しないために」

法政大学社会学部教授 藤代裕之氏

フェイクニュースはメディア間の相互作用で成長する。どこで止めるべきか。

「#東京脱出」「千人計画問題」などを事例に考える。

◎分科会4：「実名報道——新たな理論構築に向けて」＜11月中旬に開催案内送付＞

12月3日（金）午後1－5時、日本新聞協会8階会議室からオンライン

座長：読売新聞東京本社社会部デスク・佐藤直信/山陰中央新報社編集局ニュースセンター長（局次長）兼報道部長・万代剛

○基調講演 専修大学文学部教授 澤 康臣氏

「実名報道の意義をどう伝えるか—AP通信の事例などを踏まえ」（仮）

- ・その必要性、本当に事実の核心なのか ・批判の中身とは
- ・なぜ上から目線と言われるか

○「改正少年法の内容とメディアの対応」報告：共同通信編集委員 佐々木央氏

○事例報告：静岡新聞、茨城新聞、神戸新聞、新潮社 ほか

◎分科会5：「新型コロナウイルス報道の検証」＜11月下旬に開催案内送付予定＞

12月14日（火）午後1－5時、日本新聞協会8階会議室からオンライン

座長：朝日新聞大阪本社科学医療部長・高山裕喜/山陽新聞社編集局報道本部報道部担当部長・鈴木義治/毎日新聞東京本社社会部副部長・長野宏美/R S K山陽放送報道局報道部デスク・武田博志

○基調講演 医師・尾崎章彦氏：「新型コロナ報道の過去 現在 そしてこれから」（仮）

- ・ワクチンに関する報道のまとめ（どのようなトーンで議論されていたか）
- ・厚労省記者クラブ所属媒体とそれ以外での報道の特徴
- ・どの程度の記事が実際に海外の論文を引用していたか

○事例報告者 毎日新聞記者・川崎桂吾氏+立正大湊南高校教頭・上川慎二氏、山陽新聞記者（未定）、山陽放送記者（未定）、

講談社第一事業局第一事業戦略部副部長・山崎高資氏（「コロナ報道からこぼれている視点——療養体験から」（仮）

以 上